



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2005号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 プケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 諏訪部照久 幹事 千葉 慎二



広重版画より 三島 朝霧

第2068回例会

2015.4.16晴
於:米山記念館

司 会

登崎久夫君

ロータリーソング

「それでこそロータリー」
指揮 三田明宏君

会長挨拶

副会長 鈴木郁夫君

今日は、ここ米山記念館の例会ですが、昨年8月9日に続き本年度3回目となります。また今月の25日の土曜日には記念館の春季例祭が行われます。例祭は春秋と2回行われますが、秋は記念館の創立記念日、春は米山梅吉翁の命日、4月28日にちなんで開催されます。

先日「米山梅吉の一生」という本を読んでいた私には、まったく知らなかったのですが、勝海舟と梅吉とのつながりが、その本の中に出ていましたので紹介させていただきます。勝海舟はご存じの通り、戊辰戦争のとき西郷隆盛と会談して江戸城を無血開城して、江戸の町を戦火から救ったというエピソードがある、明治維新の立役者ですが、梅吉が出会ったのは明治29年で、海舟は32年に76歳でなくなりますから、最晩年の時期だと思います。梅吉が苦学して8年間のアメリカ留学から帰国したのが、1895年 明治28年 梅吉28歳のときでした。翌年に米山はと結婚し、新聞記者や文筆家になろうと職を探していた時期でもあります。梅吉は海舟を大変尊敬し、師と仰いでおり、また幕末の出来事を本にしたいと思っていたので、ひんぱんに海舟のところに出入りをしていました。アメリカのペリー提督のことを書いた「提督ペリリ」という本を、梅吉は初めて出版しましたが、海舟に頼んで本の巻頭を飾る題字を、この頃書いてもらっています。この頃の海舟は病気がちで、あまり人が寄り付かず、「人間はえらくなると来なくなる、だれでもそうだ」と梅吉に愚痴のような事を冗談交じりに話したりしています。一時期、日本鉄道会社に勤めますが長続きせず、伊藤博文、山形有朋と並んで明治の3傑と呼ばれた井上馨の女婿であった友人藤田四郎の

つてで明治30年に三井銀行に入ります。翌年、三井銀行から欧米出張を命じられ、同じ時期に海舟から、「内務大臣の大臣秘書官に推挙する」という手紙を受け取ります。そのころの大臣秘書官と云うのは大変な出世なのですが、悩んだ末に友人との友情を選択して、海舟からの申し出を断り、欧米出張に行くことを選んで、銀行家としての道を歩みはじめます。このようなエピソードから、梅吉と海舟がかなり近い間柄であったことが推測されますし、梅吉が大変優秀でいかに周りから期待されていた存在であったかということが判ります。その後1920年大正9年、梅吉53歳のときに日本で初めてのロータリークラブであります東京ロータリークラブを設立し、また1924年には日本で初の信託銀行である三井信託銀行の創立にかかわります。

今日は米山梅吉翁と勝海舟のつながりについてお話させていただきました。

出席報告

	出席総数	出席率	メー ッ プ	修 出 席 正 率
前々回	38/44	86.36%	39/44	90.91%
今回	36/42	85.71%	会員総数	48名

欠席者 大畑君、窪田君、佐野君、野田君、森崎君、米山君

幹事報告

幹事 千葉慎二君

- ①本日より、清水銀行の大畑さんの後任の山口さんがゲスト出席。
- ②ガバナー事務局より2件
ガバナーノミニ・デジグネート(次々年度のガバナー予定者)が決定。焼津RCの村松友吉(ともよし)さん。
バスト・ガバナー(甲府北RC名誉会員)の岩波政雄さんがご逝去。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- ③会員の米山さんから。暫くの間お休みになります。

2014~2015年度
国際ロータリー会長
ゲイリー・C.K.ホアン

ロータリーに輝きを



スマイルボックス

- ◆ゴルフ同好会、4月12日(日) 函南ゴルフクラブにてゴルフコンペを行いました。優勝勝間田さん・準優勝平出さん・3位宇田川さんでした。次回は5月10日(日)に御殿場の富士カントリー倶楽部で行います。プレー終了後、勝間田さんのかわ嶋に寄り、表彰式・懇親会を行います。
- ◆Gテーブル、4月7日Gテーブル会を開催しました。美味しい食事と楽しい会話で大変有意義な時間でした。残金スマイルします。

卓 話

ロータリー財団とは

ロータリー財団米山委員会
副委員長 石井 彰君

ロータリー財団は、1917年、米国ジョージア州アトランタで開催された国際大会において、アーチ・克蘭フが「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でより良いことをするために基金をつくらう」と提案した事に始まります。アーチ・克蘭フは6人目のRI会長で、ロータリー財団の父と呼ばれています。各地のロータリアンが目先の世界の出来事に目を奪われている第1次世界大戦中にアーチ・克蘭フの夢が提起されました。数カ月後にこの新しく誕生した基金は米国ミズーリ州カンザスのクラブから26ドル50セントの最初の寄付金を受け取りました。1928年ミネソタ州ミネアポリス国際大会で、この基金はロータリー財団と名づけられました。

ロータリー財団の使命

国際ロータリーの使命:他者に奉仕し、高い倫理的基準を促進し、事業と専門職務及び地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進することである。
ロータリー財団の使命:ロータリアンが人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることである。

国際ロータリーの使命は他者に奉仕すること、高い倫理的基準を推進すること、世界理解、親善、平和を推進することの3項目から成ります。それに対し、ロータリー財団の使命は3番目の世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 山口弘毅さん(勝間田君・千葉君のゲスト)

ROTARY NEWS

ポリオワクチン開発から60年

4月12日は、ジョナス・ソーク博士が1955年にポリオワクチンを開発してから60周年という記念すべき日でした。安全で効果的であるとして今日に至るまで利用されているこのワクチンが大きな後押しとなり、この60年の間に世界におけるポリオ発生数は99%減少しています。現在、常在国は3カ国(アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン)を残すのみとなり、ポリオという恐ろしい病が世界からなくなる日まで、本当に「あと少し」のところまで来ています。

ソーク博士による不活化ワクチン(IPV)は、世界的なポリオ撲滅活動の進展に欠かせないものですが、このワクチンが広く利用される以前は、米国だけでも年間35,000人がポリオに感染していました。ワクチン導入から2年後の1957年には発生数が90%減少、1979年には米国でのポリオ撲滅が達成されました。

しかし、世界規模でこのワクチンの効果が表れるまでには時間がかかりました。世界規模でのポリオ撲滅への取り組みとして、ロータリーが世界保健機関(WHO)、ユニセフ、米国疾病対策センター(CDC)とともに「世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)」を開始した1988年、実に125カ国でポリオが子どもたちの健康を脅かしていたのです。それから四半世紀を経た現在、常在国は3カ国となり、ナイジェリアでは現在、ポリオの無発生が8カ月継続しており、アフリカ大陸でのポリオ撲滅が目前に迫っています。

GPEIでは現在、ポリオ撲滅最終戦略計画が進められており、今年中に120カ国で不活化ワクチンが導入される予定です。この戦略計画は、GPEIだけでなく、Gavi(ワクチンと予防接種のための世界同盟)と世界最大のポリオワクチン製造元であるサノフィバースツール社が中心となって実施するものです。

同社のオリビエ・シャーマイユCEOは次のように話します。「120カ国以上の国々が不活化ワクチンを導入することによって、ポリオ撲滅の最終章が始まると言えるでしょう。弊社では、経口ポリオワクチン(OPV)から始まったポリオ撲滅活動において、不活化ワクチンが重要な役割を果たすことを、長年の間認識してきました」

(週報担当:遠藤真道)